

聖徒の道

8

VOL. 10 No. 8





予言者のことば

2

サウニアツ

デビッド・O・マッケイ

伝道部長メッセージ

6

アドニー・Y・小松

質疑応答

8

ジョセフ・フィルディング・スミス

系図のページ

10

バビロン

13

一回船来布者物語

16

家族のタテキスト

22

図書案内



八月は夏の連続

日照りは相変らず強い。

空は男性的な夏雲が流れ

時々夕立や雷雨が訪れる。

路傍の雑草がほこりをかぶって
葉をもたれ、生い茂った樹木の
上では終日蟬の声がかまびすし
く鳴く。

月初めに秋が立ち

暑さのなかにも秋へ向う気配。

聖徒の道 10巻8号

1966年 8月1日

サウニアツ

デビド・O・マッケイ

南太平洋伝道部に住んでいる教会の兄弟姉妹たちは素晴らしい人たちであります。彼らは祝福された民であります。彼らは心をつくし、精神をつくし、思いをつくして主を愛しますので、そのおかしとして天よりの祝福はシャワーとなつて注がれているのであります。

私は最初一九二一年に十二使徒会員として世界の伝道部を廻った時に、又一九五五年に教会の大管長として、そこに戻った時にサモアに於ける皆さんと共に時を過しました。

私は今、一九二一年五月三十一日の午後、ヒュー・J・キャノン長老と共に小さなサモアの山村サウニアツ地区で劇的な別れをした時の情景を思出します。

これらの人々は十字路で、いつまでも名残を惜しんでたどっていたのでした。

その日、私たちこれらの暖い心の聖徒たちと伝道本部で一度またその少し後で村から百ヤードばかり離れた河の土手とで二度のお別れを惜しんだのであります。

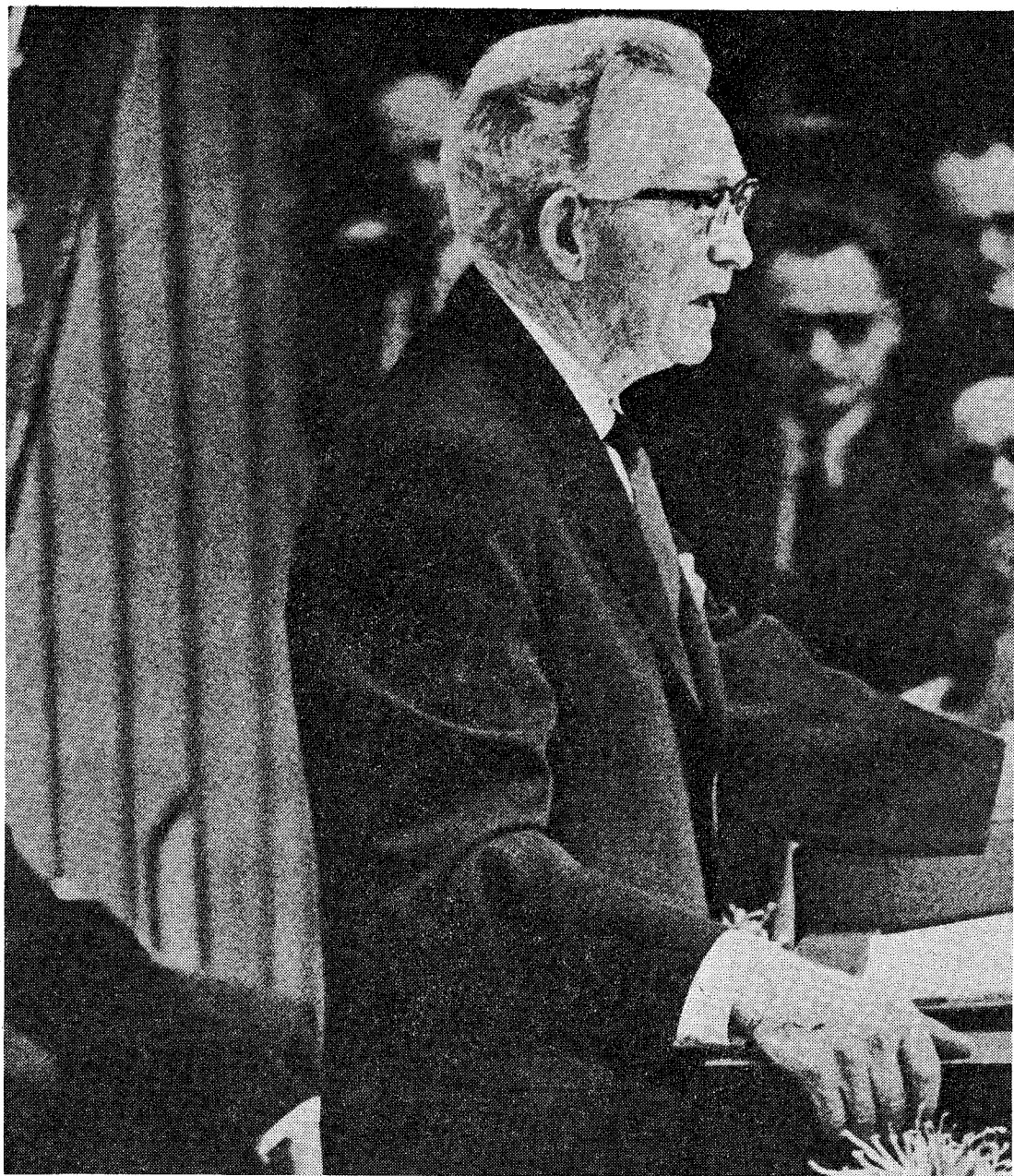
ほんのわずかな滞在に過ぎなかったものでありましたが聖徒たちの一群は分れがたく私たちについて来たのであります。彼らは美しい熱帯地の道を隣接しているゴム園への分岐点迄来てしまったのでした。彼らは二百人ばかりの敬虔な一団でバンドの後に行進しながら内地語で、さようなら私のフェレニー、を歌い続

けました。

私の同僚キャノン兄弟とジョン・Q・キャノン部長夫妻及び私はそれぞれ馬に乗っておりました。遂に私は止って馬から降り、こうもり傘をパンヤの樹にかけました。そして私の腕をあげ祈りを以て次のように彼らに祝福を与えました。私たちの永遠の天の父なる神よ、救主の時代にも、また今日に於ても汝の民と汝の選ばれたる僕との間に多くの印象的な別れがありました。ペテロ及びパウロと彼らの仲間テモテ、マルコ及びルカその他の間にたしかにおごそかな涙の別れがあったに相違ありません。けれども私たちはそれに劣らないような別れが今ここに展開されていることを強く感じます。

天の父よ、今汝の最初の神殿である、この美しい森で、我々が如何に悲しい別れを告げ合っているか、御覧下さい。

聖なる父よ、愛とやさしい、いつくしみを以てこの善良な民を見守り給へ、彼らの村落に在って、すべての悪の影響から彼らを守り給へ、その指導者たちを、ほんとによき牧者とし、その群に敵意、悪意、冷淡の形をとった狼が入って来ることのないようにふせぎ給へ、母親たち若い男女青年たち、特に子供たちを祝福し給へ、視力の害われた小さな子にまたその他汝の僕が灌油した人たちを憐み給へ、苦しめる人たちの信仰と忠実さの故に彼らの病を医し健康に立戻らせ、元氣



になし給へ。
このサウニアツの村落に平和をもたらせ給へ。

父よ、汝の愛の内に、日常の糧のために働らくすべての人の手を榮えさせ給へ。そして彼らが豊かな食物と衣類に恵まれますように、彼らの作物がよくこの地に適して豊かにみのりますように、何にも増して彼らの心に家庭に平和がありますように。

我らの父よ、彼らが真理をはっきりと理解し、汝と汝の神性な働らきを速かに知ることが出来ますように。

聖なる使徒職と私に授けられた神権の権能とによって、今私はこれらの祝福をこれらの汝の聖徒たちの上に結び固めます。

この別離と祝福が、汝の権能と恵みにより、彼らにとっても私たちにとっても神聖な祝福となりますように、へりくだって我らの救主、イエス・キリストの御名によってお祈り致します。アーメン。

その夜サウニアツから二十哩離れたベセガで私たちは私たちの生涯で最も記念すべき感謝と幸福な一夜を過したのでありました。

それから三十四年、経って私はマッケイ姉妹と共に再びサウニアツ村を訪ねたのであります。

マッケイ姉妹と共に出席した、サモアの一集会で私は次のように注告しました。「あなたの内地の称号を敬いなさい。け



れども決してそれを神の神権の上におかないように」

そこで私は、体重が五二〇ポンドもある（彼は象皮病と言われる重いフィラリア病にかかったことがあったのでした）警察官、フィティスマスの話を聞きました。彼が言うには彼は曾て若し彼がモルモン教会を去ってロンドン宣教師協会へ奉仕するならサモアで最高の称号を提供しようと申込まれたそうですが、その時の彼の答えは（私は彼が権威を以て話したことをいつまでも忘れません）

「私はサモアの王になるよりも、モルモンの執事になりたい」でした。

私たちはアピアからサウニアツ迄自動車を走らせましたが、海岸から約五哩入った処の美しい盆地に美しい教会の村がかくまれてありました。その行程は約一時間でありましたが私は私の旅の同伴者に私がキャノン兄弟と馬に乗ってベセガから一日がかりでここ迄来た時のことを語りました。

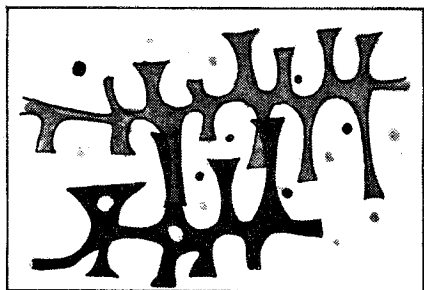
それから私たちは橋を渡り、村から約半哩離れた、一九二一年に私がこの民に祝福を与えて語った記念碑の建っている所に止りました。その記念碑は私の訪問に備えて磨かれペンキが塗られていたに相違ありませんが、私たちの眼前に横たわる村自体もそれ以上に、美しくされてあったのでした。一週間ばかり雨が降り続いていたようでしたがその朝は太陽が輝き素晴らしい日でありました。一九二



一年の人々及び彼らの子供たちがサウニアツに留っていたのであつた。

ハワード・ビー・ストーン・サモア伝道部長はサウニアツはサモアで最も美しい所だと言いましたが私はこれに答えて「ここはほんとに私が今迄に見て来た内で最も美しい処であります。それは三十四年前に私が始めてサモアを訪れた時の夢でありました。このような美しさ、荘厳さ、素晴らしさを私は未だ曾て見たことがありません」

私たちは前進してこの聖徒たちに逢い教会の学校をも含めて彼らの建物を献堂し、この民を祝福し、ねぎらいました。サウニアツは再び私に与えられ、この度はマツケイ姉妹も共に在って私たちの生涯に於ける最も記念すべき日となりました。

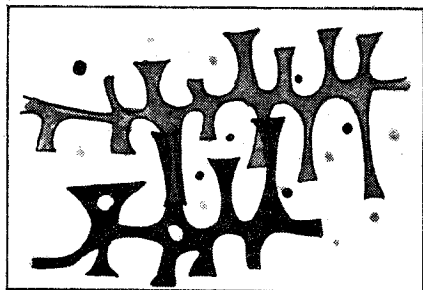




一年の人々及び彼らの子供たちがサウニアツに留っていたのであつた。

ハワード・ビー・ストーン・サモア伝道部長はサウニアツはサモアで最も美しい所だと言いましたが私はこれに答えて「ここはほんとに私が今迄に見て来た内で最も美しい処であります。それは三十四年前に私が始めてサモアを訪れた時の夢でありました。このような美しさ、荘厳さ、素晴らしさを私は未だ曾て見たことがありません」

私たちは前進してこの聖徒たちに逢い教会の学校をも含めて彼らの建物を献堂し、この民を祝福し、ねぎらいました。サウニアツは再び私に与えられ、この度はマッケイ姉妹も共に在って私たちの生涯に於ける最も記念すべき日となりました。





愛する兄弟姉妹のみなさま

アドニー・Y・小松伝道部長

私たちの愛する予言者デビッド・O・マッケーイ大管長は私たち会員の一人一人が宣教師であると言いました。

私たちは皆友だちや家族の者を招いて私たちの教会で教えているイエス・キリストの福音の原則を勉強させる機会を持つております。私たちは、これらの教会に関心を持ち教会に就て学びたがっている人たちをフル・タイムの宣教師に紹介することが出来ます。

教会のすべての会員がよい宣教師になるためには主の戒めを守ってよい模範を示さねばなりません。私たちは道徳的に清潔で、純情を保ち世の罪に染まらないように期待されております。

私たちは交際する時にその行為に非難されるようなことのないように常にすべてのことに誠実でなければなりません。

チャーチ・ニュースの、すべての会員は宣教師のメッセージを参照して見ましょう。

主がこの福音の新しい神権時代を開かれた時、彼は全世界に向って特に新しい教会の会員に向って挑戦されました。

世界に対する挑戦は、聴け、いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ、であります。

彼の教会の会員に対する挑戦は、全人類あらゆる国民、部族、国語、民族に、福音を宣べ伝えることでありました。

主がもたらしたのは奇しきみわざでありました。それはかくされるべきものでなく、全世界にひろめられねばならないものでありました。それは屋上で、すべての人に語られなければならないものでありました。

主が教会の会員にこの彼らの大きな責任に就て言われました。

見よ、われは民に証し民を警めんため汝らを遣わせり。されば、その警めを受けしことあるすべての人はその隣人を警むる責任あり。故に人に言逃れあることなし。罪は人々自らの頭の上にあり。

主がその民に与えたのは誠に大きな責任でありました。警めを受けたすべての人はその隣人を警める責任がある、のであります。

警めを受けたことのあるすべての教会の会員とは福音を聴いて受入れた人であります。そして各会員が

隣人を警める、神の宣告の下にあるのです。ではどのようにしてこれを遂行しますか？ そこには多くの道があります。

曾て主は私たちに人々の前に彼らが私たちのよい行いを見られるように私たちの光を輝かせと告げられました。それは福音を説く最も大切な方法で私たちのよい行為自体を以て語

らせるのであります。

若しも教会の会員が福音に生きさえすれば彼の生活は、彼を見るすべての人をひきつける輝く模範となるであります。そして彼らはそのような生活の力をたずねずにはおれなくなるでしょう。

これは私たちの軍人の間に多く示されたところであります。彼らの潔い生活、彼らの夜の祈り、他の多くの軍人が耽っている、世俗的なことに染まらない姿は彼らの友の注目を惹かずにはおられませんでした。その中で心の正直な者は、何故？ どうして？ 何であろうか？ と観察せずにはおられずその結果、多数の人が改宗して教会に入ってきたのであります。

私たちが、隣人を警めれる。もう一つの道は、私たち自身の家庭で私たちがそのように生活し、私たちの子供たちに福音を教え彼らが成長するに及んで完全に改宗することであります。

私たち自身の家庭よりもよい伝道地はないのであります。私たち自身の子供たち以上によい。コンタクト（接触）はないのであります。

もう一つの道は、教会の組織を効果的に建設的なものとし、王国建設

の目的達成に効果あるようにすることであります。私たちがより忠実に、効果的に上手に働らく時に、私たちは組織に入ってくる人に、また外での観察者により多くの影響を与えることができるのであります。

更に最も効果的な方法があります。それは文字通り、私たちの隣人を警める。ことで私たちの隣家、職場、学校、遊び友、すべての教会の会員でない知己または友人であります。若しも彼らが私たちのよい友であるなら、この救いの福音を宣べ伝えるによい人たちでありましょう。

私たちの最上の友が救われなくてよいでしょうか？ そして彼らは福音なくして救われるでしょうか？ 若しも彼らが福音に就て無知であつたら福音によって救われるでしょうか？ そして若しも彼らが無知であるなら、私たち以上に誰が彼らの扉を開けてやれるでしょうか？

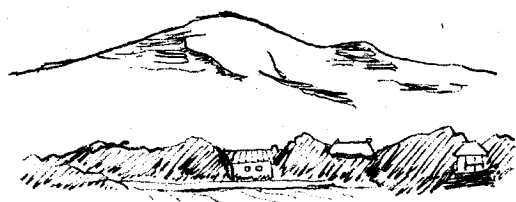
福音の会話を始めることは容易なことであります。誰でも私たちの友だちに、彼らが私たちの教会に就て知っているかどうかたずねることができます。

彼らが多少知っていようと私たちには次の質問。あなたはもっと知りたいですか。をすることができます。

若しも彼らが望まないなら私たちはそれ以上彼らを当惑させる必要はないので

す。若しも彼らがつと学びたいなら私たちは容易に彼らを助けるように約束できるのです。

数千の末日聖徒は、これらの質問をしてより多く学びたい人を私たちの宣教師に合わせているのであります。それはすべての人がその成行きを知り宣教師の助けが得られるように前以て準備、計画されるのであります。小さなグループでこのような討論をすることは福音の最も建設的な方法であります。すべての人がそれに加わることができます。あなたは如何ですか？





貞潔と服装

解答者

ジョセフ・フィールディグ・スミス長老



質問

私は貞潔と服装に就て話すように頼まれましたが、どうぞ教会の模範的な服装に就てはつきりと説明して下さい。教会の或女性たちは坐った時に膝が出る程短い服装をしております。私の理解する処では末日聖徒の女性には常に膝が覆われているような服装をすべきで、少くともミューチュアルの年令に於てはそうあるべきだと思いますが、正しい答えをお願い致します。

答

早期の偉大な予言者の一人イザヤはこの末日に於ける。シオンの娘たちにはびこる状態を予見して書きましたがその一節に次のような句があります。

主は言われた

シオンの娘らは高ぶり

首をのばしてあるき目でこびをおくり

その行くとき氣どつて歩き

その足でりんりんと鳴り響かす

それゆえ、主はシオンの娘らの頭を

撃つて、かさぶたでおおい

彼らの隠れた所をあらわされる

その日、主は彼らの美しい装身具と服装すなわち、くるぶし輪、髪ひも、月形の飾り、飾り帯、香箱、守り袋、指輪、鼻輪、礼服、外套、肩掛、手さげ袋、薄織の上着、亜麻布の着物、帽子、被衣などを取り除かれる。

芳香はかわつて、悪臭となり

帯はかわつて、なわとなり

よく編んだ髪はかわつてかぶるとなり

はなやかな衣はかわつて荒布の衣となり

美しい顔はかわつて、焼き印された顔

となる。(イザヤ書三・一六―二四)

私がステーキ部大会で台の上に坐つて聴衆を見降ろしているとイザヤが語つた或このような状態があるのを見かけます私が若い時ソルト・レーク、ステーキ

アカデミー及びその後末日聖徒大学に学びましたが、その頃、女性には頭から足迄きちつとした服装をしスカートは足首迄垂れ下つていました。私は一組の若い男女学生がクリーク・キャニオン市へ旅行した時に起つた一事件を思い出します。一人の女性が滑つて、スカートを枝にひっかけ、足を露してしまいました。彼女はすっかり当惑して組から立去ろうとした他の女性には彼女を思ひとどまらせるのに苦心しました。

今や現代に於てイザヤの予言は成就されつつあります。

次の記事は一九六六年一月十五日土曜日のソルト・レーク・トリビューン十一頁に、膝が露わなのは馬鹿らしい。スタイリストの評言、の見出しで掲載されたものであります。

ニューヨークAP、四人のヨーロッパのファッションの大家が今日の短いすそを批判して如何なる女性でも人前で膝を出すのは馬鹿らしいことだと言いました。

英国皇室の婦人服仕立人、ロンドンのノーマン・ハートネルは言いました。

花嫁さんが結婚する時は、その生涯で最も大切な時であります。彼女は床にひさずるスカートを穿きます。

女性はその他の時には馬鹿者であつていいのでしょうか？ 彼女たちは鏡を保持している筈です。膝に何の美しさがあるのでしょうか？ 彼はこうたずねています。ハートネルのお客さんをも含めて彼は

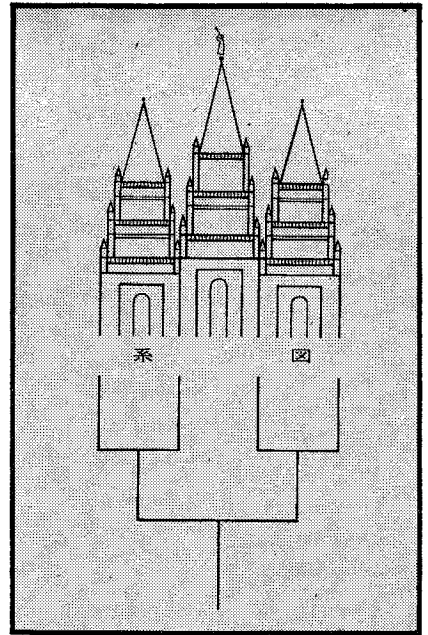
。英国で選り抜きのお客さんたちは、膝が見えないのに何故他の人たちは見えるのですか？ と言つております。

彼は一週間のニューヨーク服装グループ試写会に出席した流行記者と語りましたが、そこでのすそは膝から三寸も上でありました。ハートネルを訪ねたデザイナーたちはパリーのジャクエス・ヘイム、マドリッドのペドロ・ロジグエツ及びローマのミコル・フォンタナでしたが皆、これから三週間のヨーロッパに於ける彼らの春衣の試着でありました。

。概してどんな流行でも、その流行の行き過ぎ又は悪用によつてだいなしになつてしまします。短さはあまりに短くなり過ぎます。とヘイムは言つております。私は女性の美しさは彼女を最上の方法に示すことであり、その最上の方法は膝と何らの関係もなく膝は常に覆われているべきであることを強調したいと思ひます。と彼は言つております。

教会幹部によつて述べられた標準は、男も女も同様に、つつましい服装をすることであります。彼らは常につつしみ深く正しい態度をするように教えられております。私の眼には、シオンの娘たちがつつしみのない服装をする時、悲しく反映します。このことは女性と同様に男性にもあてはまります。

主は昔のイスラエル人に男女を問はず常に彼らの身体を覆つて貞節の律法を守るように戒めを与えました。



戸籍とは (上)

西宮支部に於ては六月五日市役所の戸籍係を講師に招いて、系図探求に熱心な会員が中心となつて戸籍の研究會を開きました。その時の貴重な資料を坂井支部長がわざわざ本部に届けて下さいましたので、多数皆様会員の系図探求の為に左に転載致します。

一、戸籍の機能

一人の日本國民について、戸籍となつてゐるが發生するのは、その人について出生の届出がなされた時であり、これと縁の切れるのは、死亡した当時、入つてゐた戸籍から、他の在籍者全員が除かれた時から八十年を経過したときである。すなわち、ある戸籍から在籍者が全員

それぞれ何らかの事由(たとえば婚姻による新戸籍への入籍や、死亡による除籍など)で除かれた場合、その戸籍を除籍簿という帳簿に綴り込むのであるが、その除籍簿は八十年間保存することとされているのである。

したがって戸籍は一人の國民について極めて長い年月にわたり、その自分關係を公の帳簿に記録し、公証する機能を有しているのである。そこでこのように身分關係を登録、公証する制度はいかなる目的のためにあるのかということを考えてみよう。

(一) 戸籍制度の目的

私たちの身近には親とか、配偶者とか、子など一定の親族關係にある人がいて、この親族關係があることによって生ずる權利義務は数多くある。

未成年者は父母の親權に服し、親權者は子を監護教育する權利義務を有し、ある人が死亡すればその人の配偶者や子は相続人となる。このようにある種の權利義務は一定の親族關係の存在によつて、當然に發生するので、これらの親族關係の証明が必要である。

そして又婚姻にあたり婚姻適令に達しているとか重婚でないということなども、戸籍の記載で一目瞭然であるから便利であるし、日本國籍を有しているとか氏名、生年月日、父母の氏名、父母の続柄、兄弟姉妹關係などについても容易に

証明できるところである。

又一方では出生、死亡、婚姻、離婚などの届出件数によつて、わが國の人口動態を捉え、國の諸施策を企画する資料としての役立つ面も見のがすことはできない。

以上ほんの一例にすぎないが現在における身分關係の登録公証制度、即戸籍制度の存在意義がどんな点にあるか、だいたい見当がつかれた事と思う。

(二) 戸籍の沿革

わが國における戸籍制度の起源は幸徳天皇の大化元年八月の詔勅であるといわれており、今から一、三〇〇年前のことである。しかし全國統一のかつ近代的身分登録制度として最初のものは明治四年四月四日、太政官布告により制度された戸籍である。これは明治五年(壬申年)から施行されたので一般に壬申戸籍といわれている。

この壬申戸籍においては、本籍、氏名、年令、婚姻、縁組などの身分關係を記載する他、職業、印鑑、宗旨、犯罪など、各種行政上の所要事項をも記載し、社会秩序の維持や各種行政を円滑に推進するため、社会の構成員を的確に把握することなどを目的とする制度であつた。

この壬申戸籍は明治十九年内務省令により改正され、明治十九年式戸籍に整備された。これらの戸籍は住所を本籍として編制し、現実の生活共同体である一家の居住關係を記録すること、すなわち住

所登録の目的をも有していたが、家族員の移動がはげしくなるにつれてその意義は薄れ、次第にもっぱら身分関係の登録にウエイトがおかれるように変質していったのである。そして民法の制定に伴って施行された明治三十一年式戸籍が生まれたのである。

この戸籍は従来の戸籍法の他に欧米における身分登記制度を採用し、新たに身分登記簿を設けたところに特色がある。

ここにおいて戸籍は、もっぱら身分関係の登録公証だけを目的とする制度として確立し、多くの重要な身分関係が戸籍の届出によって成立する旨の規定を設けた民法に対応する制度となり、戸籍法は民法の手続的附属法規としての性格をもつことになったのである。

その後戸籍法は大正三年の改正により戸籍簿と自分登記簿の二本建が廃止され大正四年式戸籍に一本化され爾来三十数年の長きに亘って行なわれたのである。さらに昭和二十三年改正民法の施行に伴い戸籍法も全面改正され夫婦親子を編制単位とする現行戸籍に改められたのである。

二、戸籍行政の機構

戸籍事務は全国の各市町村長が取り扱っているのであるが人の身分関係を公証し、また身分関係の形成に関与する戸籍事務は性質上国の事務に属し、地方公共

団体固有の事務ではない。

しかし明治初年以來、国は戸籍事務処理のため特別の機関を設けず市長村長を国の機関として、その処理を委任するいわゆる機関委任の形をとっている。

戸籍事務に関する監督は国の機関である法務局又は地方法務局長がこれを行ない、市町村議会はこれに関与することができず、条例制定や監査の権限も市町村は有しない。

この監督権は戸籍事務が法令に基づき適正かつ迅速に処理されるように指導することに限定される。

なお家庭裁判所も戸籍訂正、不服申立等を通じて戸籍に関する一種の監督作用を行なっている。

三、戸籍のしくみ

戸籍は市町村の区域内に本籍を定める一つの夫婦及びこれと氏を同じくする子を単位として編製された身分登録の文書であり、その様式の記載例は全国的に一定されている。

戸籍とは人の身分関係を公証登録した公文書をいう。

本籍とは人の戸籍の所在場所をいう。

(一) 届出の種類

戸籍の記載は大部分が届出によってなされるのであるがその届出には、出生や死亡などの事実の発生または裁判上の離婚縁縁認知などすでに法律上効力の生じ

ているものについての届出(報告的届出)と婚姻、縁組、協議離婚、協議縁縁、任意認知など届出によって効力を生ずる届出(創設的届出)がある。

(二) 戸籍の編制単位

現在の戸籍は一組の夫婦とこれと氏と同じ子ごとに編製されることになっている。

この原則によって婚姻関係にある父母の間に生まれた子は父母の氏を称するのて父母の戸籍に入る。

婚姻関係にない男女間に生まれた子は母の氏を称するので母の戸籍に入る。子が婚姻して夫婦となるととき一つの戸籍内に二組の夫婦が同居することは、この原則に抵触するので新しい戸籍を作る(新戸籍編製という)養子は養親の氏を称するので養親の戸籍にはいるか、養子となるものが夫婦である時は新戸籍を編製する。

離婚すると、婚姻の際に氏を改めた者は婚姻前の戸籍に復するか、新戸籍を編製し離婚した養子も縁組前の戸籍に復するか新戸籍を編制する。

(三) 本籍と筆頭者の氏名

戸籍の届出をするときか謄本などを請求するとき、目的の戸籍を特定する目安となるものを戸籍の表示と称し、本籍と筆頭者の氏名で表わしている。

本籍は行政区画、土地の名称および地

番号で表わす。筆頭者とはその戸籍の筆頭に記載されている者でたとえば婚姻によつて新戸籍を編製する時は、夫婦の称する氏が夫の氏であれば、夫がその筆頭に記載されるのである。この筆頭者は従前の戸主といわれるものとは全く異なるもので（戸籍の筆頭に記載される点では同じであるが）筆頭者として特別に賦与される実質的な権限はない。

なおこの筆頭者の氏名は筆頭者が死亡その他の事由によつてその戸籍から除かれても、消除されることがないのは、戸籍を特定表示する機能の一部を負担している以上当然のことである。

四 登録される身分事項

戸籍には各人を特定する事項として、氏名、出生年月日、父母の氏名、父母との続柄が記載され、その身分事項として出生認知、婚姻、縁組、離婚、離縁、死亡、失踪、親権、後見、相続人の廃除、国籍の得喪などが記載される。もつとも出生によつて入籍した戸籍に一生とどまる人は少なく、多くは婚姻、縁組などによつて新戸籍や他の戸籍へ入って行く。

その場合、初めの戸籍に記載されていた身分事項中重要なものは新しくはいない戸籍に移記されることになっている。

出生、婚姻、縁組、認知などは重要な事項として移記されるが、いったん離婚した人が再婚して新戸籍又は他の戸数へ入る場合は、前の婚姻及び離婚事項は移

記しないこととされている。

婚姻や縁組などによつて新しい別の戸籍にはいる場合、従前の戸籍には出て行く先の戸籍が、新しく入る戸籍には、従前の戸籍がそれぞれ表示されることになつてゐるから、ある人について順次出生から死亡までに動いた戸籍を逆に死亡当時の戸籍からさかのぼつて出生当時の戸籍まで、それぞれたどることができしくみになつてゐる。

(四) 戸籍訂正

戸籍に記載された事項は一応真実であるという強い推定力をもつものであるが市町村長には届出の内容を実質的に審査する権限はないから、残念ながら不実の記載をされる可能性がある。この不実の記載の是正手続が戸籍訂正といわれるものである。

戸籍訂正の原則は、家庭裁判所の許可を得て申請するのであるが、戸籍の記載の錯誤又は遺漏が市町村長の過誤によるものであるとき、又は届出人、事件本人に戸籍の記載に錯誤もしくは遺漏があることを通知することができない時、又は通知をしても戸籍訂正の申請をする者がないときは市町村長は法務局長の許可により訂正することもあるし、身分関係の存否等に関する確定判決によつて訂正することもある。

戸籍訂正事件は全届出事件数からみれば僅少には違いないが、一般にその処理は難解とされ、これに費す人的、時間的

努力は市町村の事務担当者泣かせとなつてゐる。

往時よく婚姻前の女子の出生した子を他の夫婦の子にして届出たようなことも現在では出生届書に医師や助産婦等の証明書添付しなければならぬから減少はしたが皆無とはいえない。

戸籍の信頼性を維持し真実性を高めるためにも虚偽の届出は極力排撃されなければならない。

(六) 戸籍の改製

従前旧民法の家族制度をそのまま体現してゐた戸籍は昭和三年施行の改正民法による家族制度の廃止とともに改正戸籍法によつて夫婦と親子単位の戸籍に改められた。しかし戸籍の編製単位が變つたからといつて直ちに全部の戸籍を書き替へることは到底不可能なことであつたから戸籍法第一二八条は従前の戸籍を、新戸籍法の規定による戸籍とみなし新法施行後一〇年を経たときに改正することとされた。この十年の年月が昭和三年一月二月で経過したことになつたので昭和三年四月から、その編製替（改制）が実施されることになつた訳である。

近年戸籍謄本をとつた人なら大抵気がつかれるであろうが「昭和三年法務省令第二七号により本戸籍改制」と書かれているのは、改正されたことを示すもので現在その改製作業も全国的にほとんど終了してゐる。本部でも昨年この作業を完了した。

ハビロン



山 田 五 郎

長い歴史のうちで最も意義があり、古くまた良く知られた町の中に古代の都バビロンがあります。バビロンはおよそ紀元前二二〇〇年、ノアの子、ハムの孫にあたる、反抗的でむこうみづで権力者であったニムロデにより、エノク、アカデやニネベの町を共に建てられました。この巨大な都、バビロンは初めから罪悪と混乱と神に不従順であったことで、その名を知られています。この都の名は邪悪の代名詞として使われ、おそらくこの世のあるかぎり邪悪のしるしとして残ることでしょう。イエスは崩壊するローマと背教のエルサレムを、また、古代や現代を問わずサタンの支配するものすべてをバビロンの名でもって語られました。

どこであろうと極度に腐敗した人の権力が神の王国に敵対する時、そこにバビロンがあると言えます。

この都バビロンは、ユウフラテス河の下流、アジアの南西部にあり、初め建てられた時は、バベルと呼ばれていました。バベルは、ノアの箱舟が着いたアララットの山から南に一千キロと離れていないところにあります。不義なる人々が天にまで届かせようとして高い塔を建てたのもこのバベルであり大洪水の後、間もないことでした。そして神が人々の言葉を乱されたのもこの地であり、人々を全地に散らされたのもバベルからであります。バベルを建てたニムロデは、ハムの血を受け継いでいたために神権を受け

ることが出来ませんでした、そこで異教の文化を造りました。

バビロニア王国の歴史はここ何世紀も飛び越えてバビロン全盛期のネブカデネザル王の時代を見ることにしよう。

ネブカデネルは治世の四四年の間を都の城壁の補強と、世界の都にしようと美しく造り商業、工業の中心地としました。そしてその都は富と、ぜいたくと罪悪でその名を知られるものとなりました。現在の標準で考えてもこの都は巨大なものでした。都の地形は四角で、各辺の長さがそれぞれ二四キロもありました。そして当時のいかなる武器でもって攻めても決して落すことは出来ないように建てられており、高さ一〇〇メートル厚さ約二十五メートルの城壁に守られ、その城壁の上は戦車（馬が引く）が四台も並んで乗ることが出来る規模のものでした。都の道は碁盤の目のようであり道巾は四〇メートルもあり城壁の内側には都の人々に必要な食糧を自給することが出来る畑があり万一兵糧攻めがあっても無期限に耐えることが出来ました。

都には美しい公園がいくつもあり、きれいな色々の花が咲きみだれておりました。また莫大な費用を投じて王妃アミティスの故郷、イラムに似せた人工の山を造り王妃の心をやはらげました。

バビロンはベルシャ湾にそそぐユウフラテス河をまたいで建てられました。このあたりの河巾は八〇〇メートルもあ

り城壁の下を河が流れ都の中をぬけていました。この河の水は農業用、工業用、また飲料用として、また都に美をそえていました。河にはフェリーボート(渡舟)が往来し開閉橋がかけられていました。都には美しい建物、宮殿や、神殿が色とりどりのレンガや高価なタイルや、貴金属や貴重な宝石でかざられていました。

このように目をみはる都の中心に古代世界の不思議の一つに数えられるバビロニア人が拝む偶像ベルの神殿がそびえ立っていました。栄華をきわめるその中で大王ネブカデネザルが座して権力をほしいままにしていました。王はバビロンに一層の美と富を求め、ネブカデネザルは、エルサレムを落し、ソロモンの神殿にあった貴重なかざりものや宝物の品々を持ち帰り、同時に十五万を超えるイスラエルの支導者たちを強いてきてバビロニアで国のために働くようにしました。

ネブカデネザルと言えばバビロニアやエルサレムから強いて連れて行かれたヘブル人の一人、予言者ダニエルとの関係で最も良く知られています。

旧約聖書ダニエル書にはおもにこのことがかかれています。ネブカデネザルの見た、かの有名な夢はこのダニエルの時代、ある日の朝、ネブカデネザル王は目をさますと何か重要な意味のある知らせを夢で見たことは解っていました。が、夢はもはや消えてその夢と解き明しを知ることが出来ませんでした。そこでバビ

ロンの魔術士や、法術士がその夢の解き明しに失敗してから、主はダニエルにネブカデネザル王の見た夢と、その解き明しを示されました。そこでダニエルは王に「しかし秘密をあらわす一人の神が天におられます彼は後の日に起るべき事をネブカデネザル王に知らせたのです」と言ってダニエルは王が夢で見た大いなる像が前に立っていたのを説明して「その像は大きく、非常に輝いて恐しい外観をもっていました。その像の頭は純金、胸と両腕とは銀、腹ともとは青銅、すねは鉄、足の一部は鉄、一部は粘土です」ダニエルは続いて「あなたが見ておられた時、一つの石が人手によらず切り出されて、その像の鉄と粘土の足を撃ちこれを砕きました」と。

ダニエルはこの夢の解き明かしとして「王よ、あなたは諸王の中の王であって天の神はあなたに国と力と勢いと栄えとを賜い、また人の子等、野の獣、空の鳥はどこに在るものでも皆これをあなたの手に与えて、ことごとく治めさせられました。あなたはあの金の頭です」そしてバビロンに代って後から立つ国と民について語り、その国は後の日に天の神が国を立てられ、いつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされることなく、かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ばし、この国は立って永遠に至るまで続くことを話しました。

そこで王はダニエルに大いなる位と名

誉とを授けましたが、王自身はこの教訓を充分学びとることが出来なかったの、主はもう一つこんどはネブカデネザル自身に関する夢を見せました。ダニエルはこの解き明しを「王よその解き明しはこうです。すなわちこれはいと高き者の命令であって……王に臨まんとするものです。すなわちあなたは追われて世の人を離れ、野の獣と共におり、牛のように草を食い、天からくだる露にぬれるでしょう。こうして七つの時が過ぎてついにあなたは、いと高き者が人間を治めて、自分の意のままに、これを人に与えられることを知るに至るでしょう」と。

ダニエルは王に「それゆえ王よ、あなたはわたしの勧告を入れ、義を行なって罪を離れ、しいたげられる者をあわれんで……」といいましたが、王はダニエルの勧告に反して、後になって王がバビロンの王宮の屋上を歩いていた時「この大いなるバビロンは、わたしが大いなる力をもって建てた王城であって、わが威光を輝かすものではないか」(ダニエル書四章三〇)この最強の国の大いなる王を誰れが追い払うことが出来ようか、誰れが世の人から離れさせることが出来ようかと、その言葉がまだ王の口にあるうちに天から声がくだって言った。「ネブカデネザル王よ、あなたに告げる。国はあなたを離れ去った……」この言葉はただちにネブカデネザルに成就して、王は狂気になり王子ベルシャザルが父ネ

ブカデネザルに代って王位を受け継ぎました。

ついにダニエルの予言は成就され主の目的が果された時、ネブカデネザルは「こうしてその期間が満ちた時、われネブカデネザルは、目をあげて天を仰ぎ見ると、わたしの理性が自分に帰ったので、わたしはいと高き者をほめその永遠に生ける者を讃美し、かつあがめた。その主権は永遠の主権、その国は世々かぎりなく……だれも彼の手をおさえて「あなたは何をするのか」と言いうる者はない。(ダニエル書四・三四―三七)と言いました。悲しいことにネブカデネザルはこの大きな教訓を、もっと早く勧告された時受け入れることが出来ませんでした。代々バビロニアの人は、私たちと同様に、先代のあやまちや罪をくり返す傾向がありました。ベルシャザルも父ネブカデネザル王のたどった道を進み父王と同様自分の罪のつぐないをしなければなりません。大いなるバビロンの歴史上最も重要な出来事の起ったその日にベルシャザル王は国の一〇〇〇人の大臣を集めて盛んな酒宴を設けました。酒宴が頂点に達した時ベルシャザル王はエルサレムの神殿から父ネブカデネザル王の持ち帰った金、銀の器を持ってこさせ王や王妃や王子やその妻たちがその器で飲み、一同皆んなが陽気に浮かれて飲みかわし、バビロンの偶像を拝んでいました。この時起った事は聖書に「すると



突然一人の手の指があらわれて、燭台と相対する王の宮殿の塗り壁に物を書いた。王はその物を書いた手の先を見た。そのため王の顔色は変わり、その心は思い悩んで乱れ、その腰のつがいにはゆるみ、ひざは震えて互いに打ちあった」と。
(ダニエル五・五十六)に記されている。この知らせはいち早く王妃に伝えられると王妃はすばやくよいつづれたバビロンの王が大臣たちと恐れおののいている場へ急ぎました。王妃は王にネブカデネザルの夢の解き明かしをした智者のダニエルのことを話すと、ダニエルはすぐ王の前に呼び出され、贈り物と引きかえに壁の文字を解き明すよう求められました。ダニエルは文字を読んで「あなたの賜物は、あなたご自身にとっておき、あなたの贈り物は、他の人にお与えください。それでも、わたしは主のためにその文字を読み、その解き明かしをお知らせいたしましょう。王よ、いと高き神はあなたの父ネブカデネザルに国と権勢と、光栄と尊厳とを賜いました。……しかし彼は心に高ぶり、かたくなになりごうまんにふるまったので、王位からしりぞけられ、その光栄を奪はれ、追はれて世の人と離れ……こうしてついに彼は、いと高き神が人間の国を治めて、自分の意のままに人を立てられるということを知り、あなたになりました。ベルシャザルよ、あなたは彼の子であって、この事をことごとく知っていながらなお心を

低くせず……」と言い「そして壁に書かれた文字からダニエルは王に致命的な解き明かしをしました。「あなたがはかりで量られて、あなたの国が分かれたれて、メディアとベルシャの人々に与えられることをいうのです」と。(ダニエル書五)大いなるベルシャザル王にはとても信じられないことだったに違いありません。ベルシャザル王は父ネブカデネザル王の言葉を思い出したに違ひありません。「この大いなるバビロンは、わたしの大きな力をもって建てた王城であって、わが威光を輝すものではないか」と。

華の都バビロンは不城の城で最強の兵隊と無類の城壁で守られているので、この城壁をこわし厚く大きく重いがんじょうな青銅の城門を切りぬけて戦をいどうなど、またつぎることのない食量をとち切つて兵糧攻めにしようとは誰れが思つたでしょうか。

しかし丁度その時ベルシャのクロスは、バビロンからわづか一三キロ北の地点にあってユウフラテス河の流れをそらし自分の軍隊が河岸の城壁の下をくぐつて行けるようにしていました。そして軍隊は河岸の城壁の下をぬけて大した抵抗も受けず都の中へ入り、かんじょうな城門は内側から開かれて、バビロンの王や大臣たちが飲み、よいしたっている間に城門から押入った敵の手に落ちてしまいました。

聖句はベルシャザル王をはじめ、バビロンの最後を「カルデヤびとの王ベルシャザルはその夜のうちに殺され……(ダニエル書五・三〇)」と記されています。ベルシャザル王も自分の父王と同様に砂の上に家を建てたのです。二人共主が建てなければその働きをなす人の働きはむなししいと言う教訓をついに学ぶことが出来ませんでした。

末日の予言者を通して主は「汝らバビロンより去れ。汝ら神の器を持てる者よ深くあれ。」(汝ら、諸々の国民の中よりすなわちバビロンより、霊のバビロンなる悪の中より去るべし。)(教義と聖約百三十三章六、十四)と戒めています。

ネブカデネザルとベルシャザルが、主の戒めを受けいられたら、二人共霊のバビロンを去ることが出来て、美しいバビロン王国は永く盛えたことでしょう。この二人の王の教訓を学び、霊のバビロンから早く去ることが出来るよう主に願つてやみません。

物語者来船一回

小松伝道部長さんがハワイで監督をされていたワード部の熱心な会員カマウオハ姉妹らか先日系図探求を頼まれたのですが、何か資料がありませんかと問合せました姉妹のお父さんが亡くなられた時の次のような新聞記事を送って来ましたので、原文の儘掲載しますので読書の皆様がこの記事から更に何か手掛かりとなる資料を入手されたら（原籍が静岡県だけなので戸籍がとれず困っております）伝道本部渡部宛に一報下されば幸いです。

この記事は三日に亘って連載されたのですが最後の分は失われたそうで第一回と第二回の興味ある文を転載致します。

渡部

一回船来布者物語（一）

アーウィン公使の夫人は日本人

十六才の令嬢があつた

故黒田重三郎氏生前の談

第一回船来布者子供組の一人黒田重三郎氏は今年六月三十日六十一才で永眠した。この談話は生前氏が記者に語ったものである。生存中紙上に紹介したいと思

っている中に同氏の死に遭ひ遂に遺話となつてしまった。

私は十三才の時父母に伴はれて来布した。原籍は静岡県で父を多平といった。

父は明治維新の時は安藤太郎氏などと共に会津藩に属し、上野の戦争にも参加したがこの戦争は逃げ戦で途中大根畑で、

大根を食つたものだとよく語つて聞かせた。

安藤市太郎は榎本武揚の部下で武揚が外相となるや昔の關係で引立てられ布哇の総領事になったものだ。その關係で私たちが布哇に来るや安藤氏は何かと世話をしてくれ同氏帰朝に際しては、特に私に、地球儀を置いてくれた。父はよく維新当時のことを話して呉れたが、それによると大島圭介は逃鳥圭介といはれたものだから、また西郷隆盛が函館で病氣

したとき西郷を殺しに行くという者があつたが、榎本氏は極力これをとめた。後に西郷は榎本に降参するよう願つたことがある。

かくて官軍の世の中となるや西郷は特に榎本を引立てたがこんなことは歴史の本にはないと、父得意の回顧談である。こうした父が郷里静岡県にじつとしていよう筈がない。先づ北海道渡航者募集に応じようとした、北海道渡航は五十円を払えば開墾した土地が自分の物になるといふ条件であつた。ところが祖母が大変心配し、北海道へ行くなら自分ら夫婦だけで行け、子供の同伴罷ならぬと反対したので北海道行きは遂にオヂヤンになった。私の家は代々医家で父の兄も徳沢天丈という医者であつた。その人が或日、父に向いこれからの子供にはどうしても英学を授けねばならぬ、然しそれには大変な金がかかるから重三郎は学校などにやらす早くから働かせた方がいいといったものである。勿論父は立腹し私を呼んで「重三郎お前は勉強したいか」と問うので「ハイ」と答えた。父は何か心に決するところがあるらしかった。この時静岡の新聞に布哇公使アービン氏の名により移民を募集する旨の記事が出た。給料は一ヶ月男には十五弗、女には十弗を支払う外同伴の子供には無料にて英語教育を施すと書いてある。父がこれを看過する筈がない。早速静岡から東京に上り東京で渡航手続きをとった。東京組に加はつ

は何れも文字通り行季一つであった。そして服装は勿論日本着、ただ一人、薩摩の人で元海軍にいたという坂本なる人が洋服を着し注意を惹いていた。船にはアービン公使も乗っていた。この人は元東京にいた外人にて布哇国より公使に任命されたものである。夫人は日本人にて夫人との間に十六才位の娘の子があった。令嬢は髪を長く編んで垂らしてをり、私は最初支那人かと思ったものである。横須賀を出るときの一行為は皆勇ましかった。航海もどちらかというと楽な方であ

一、二日時化ただけだった。二月八日朝早く山を見た。長い航海の後だったので皆大喜びだった。多分加哇島だっと思ふ。

それから寝るものではなく憧れのホテルに着いた。船は港外三哩のところにとどまり、一同は本船よりスカーに移乗の上上陸した機橋より移民収容所に移されたが収容所には大きなフェンスがあり中には音楽隊の台もあった。移民に対しては毎日菓子や果物が贈られ非常に歓迎振りであった。毎日音楽、相撲、撃剣な

どがあり、カラカウア王も時々来場された。

一回 船来布者物語 (二)

日清戦争が日本の大勝となるや書記とか銀行員といったインテリ階級は陸軍々人に扮し下町の無頼漢連は海軍々人に扮し、記念行列を行ったものだ。この戦勝を何かの形で永遠に記念しようと云ってできたのが「やまと新聞」で水野波門という人がククイ街で出したものである。当時英字新聞にはアドバタイザー・ホノ

アーウィン公使の

夫人は日本人

十六歳の令嬢があつた

故黒田重三郎氏生前の談



第一回船來者子快組の
一人黒田重三郎氏は今年
六月三十日六十一歳で永
眠した、この談話は生前
氏が記者に語つたもので
ある、生中紙に編輯し
たいと思つて紙中に紹介
同氏の死に遭ひ遂に遺言
となつてゐる。

私は十三歳時父に件は
て來布した、服嫁は常岡
氏といはれたものだが
又西郷隆盛が函館で病
氣したとき、西郷を殺し
行くといふ者があつたに
後には西郷は根本に降参
したと云ふ事がある、か
ういふ宮中の世の中とな
るや、西郷は特に根本に
引立てた。

機嫌で太極を食つたもの
だ、などといふ語つて聞
かせた
根本太師氏は根本武雄の
子で武雄が外相となるや
の機嫌で引立てられ、布
味
その機嫌は毎夜に來
るや、根本氏は遠く市街
にゆく、同氏朝朝に懸し
西郷は特に根本に

はがこんなことは歴史の材料
はないと、父や母の同意を得
たのである。かうした父が頼り
勝つて、北海道にじつとして父より
寄がない、若く北北海道新
報社で働こうとした、
北海道通信は五十圓を、

開墾した
土地が自
分の物になるといふ條件で
あった、ところが祖母が大
嫌ひな北北海道へ行くなら
自分等夫婦だけで行け、子
供の留守番ならぬ尻押し
オヤンになつた。
北道通信は遂に
マシヤンによつて、
代々「警察」の父の兄も徳澤
辰文といふ警務であつた
某人が、日父に向ひ、これ
からの子供はどうしよ、と
懇請を授けねばならぬ、然
しそれにば、幾ん金が必要
か、と云ふ。即ち學校などに
やらせよう、と。

働かせた
方がいい

いつたものである、勿論
父は立腹し秘を呼んで、「重
三郎お前は氣配が悪いのか
と問ふので「はい」と答へ
た、父は何かに決すると
ころがあるらしかつた、こ
の時新聞の新紙にて、布衣公
使アービン氏の名により移
民を募集する旨の記事が出
た、結核は一ヶ月男には十
五疋、女には十二疋を交換す
外、同伴の子供には無料に
て英語教育を施すと書いて
ある、父がこれを看過する
筈がない、早速神岡から東
京に上り東京で渡航手続を
きつたと、東京に加はつて
て渡航することになった所
以である、就建は十一月末
下田港より神岡丸で横濱へ
行き、更に横濱より

横須賀に、向つた、
臨川宮地より移民は横須
賀に集まり何れも移民小屋
に收容された、二週間はか
る中に人数が増つたのだ
でよく、東京丸で出帆し
たのが正月二十四日、十五
日か、つて二月八日ホノル
ルに到着した、就建東組
係人であつたがこれは何
れも東京生れといふ意味で
はなく、東京に集つて渡航
手続きをした者の一部であ
つた、第一一回船の者は何れ
も文字通り行李一つであつ
た、そして服装は勿論日本
着、たゞ一人薩摩の人で元
海軍にいたといふ坂本なる
人が洋服を着し注意を惹い
つけた、船にはアービン公
使も乗つてゐた、この人は
元東京にゐた

外人にて
り公使に任命されたもので
ある、夫人は日本人にて
夫との間に十六歳位の娘
の子があつた、令嬢は髪を
長く編んで垂らしてやり、

一回船來布者物語（二）

日清戦争が日本の大勝となるや書記とか銀行員といったインテリ階級は陸軍々人に扮し下町の無頼漢連は海軍々人に扮し、記念行列を行ったものだ。この戦勝を何かの形で永遠に記念しようと云ってできたのが「やまと新聞」で水野波門という人がククイ街で出したものである。当時英字新聞にはアドバタイザー・ホノルル・イヴニングスター・ホノルル・ブレチンなどがあつたが後の二つが一緒になつて現在のスターブレチンになつたものである（黒田氏遺話終り）

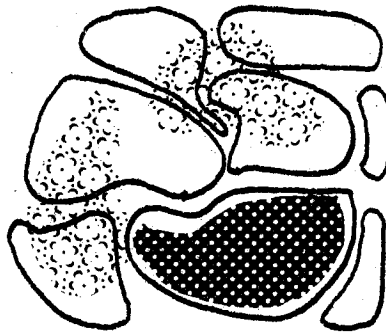
「記者附記」故黒田重三郎氏がセント・ルイス・カレッジ在学時代に非常な秀才であつたことは、先日紹介した一回船来布者の一人三樹七之輔氏の談話中にあつたごとくである。黒田氏は生前布哇人婦人を妻に持ち男子三人女子五人合計八人の子供あり孫は三十二人の多数に達している。死亡する今年六月頃にはヌアヌ街、ムリワイ、レーン一八二二C番に住んでいた。遺族は目下同所に在る。故人はデヴィス商会の次ぎにはアイエア籍地のタイム・キーパーをやり白人商会にも勤めた。約二十年前にはホノルル警察署の探偵をやりその後はホノルル漁業会社に働いていたが晩年は免病角氣勝ちであつた。

この私の手

神権の権能と力とは善をするための「生ける力」である。神権の本当の価値を知らず、神権を用いることをせず、正しくない生活をしている人の生活の中で神権は眠っている。言行一致は偉大な徳であって、神権を尊び自己の召しを完全に実行している神権者にはこれをもっともよく現われている。

「大神権、すなわちメルケゼデク神権の権能と権威とは、教会員すべての霊につける祝福の鍵を保つことなり。すなわち天の王国の奥義を受くる特権を有し、諸々の天は彼らに開かれ、神の「長子」の教会とその総集いとこの親しき交通を享け、父なる神と新たな誓約の仲保者イエスとの臨在と親しき交通を享けることなり。小神権、すなわちアロン神権の権能と権威とは諸天使の導きと恵みを受くる鍵を保ち、誓約と誠命とに適いて外形的の儀式を執り行い、福音の字義を教え罪の赦しを受くるための悔改めのバプテスマを施すなり。」「教義と聖約」百七章十八―二十節

それは典型的な末日聖徒のワード部に於ける日曜日の朝のことでありました。そのワード部の会員はそのとき日曜学校へ出るために集っていました。神権会が終ったので、ワード部の監督は二人の少年の腕をとらえて「君たち、日曜学校の聖餐式で聖餐を準備してくれるなら、ありがたいがね」と言いました。まもなくこの二人の少年は聖餐式に集った人々を見わたすテーブルを前にして席につき、



ことがあったのでした。それまで、日曜がくるといつも二人はこの役についていたのであります。

やがて聖餐式の讃美歌がはじまり、二人の少年は指を清めるために手あらひ鉢へ手をのびしました。そのうちの一人が真白な手ふきをとって手の指をふいていると、彼はその手ふきにちよとしたよ

ざれがついてきたのに気がつきました。これが彼の注意をとらえたので、彼は自分の手の状態について考え始めました。まもなく彼は立ち上って真白なパンの一片一片を裂きはじめていましたが、自分の手の指が聖餐式のパンを用意するために動いているのをじっとみているうちに、しだいに自分の手のことが気になりはじめました。

そのとき、彼はこれまでに考えたことのない重大な考えに打たれて全身のうずく思いがしました。

「この私の手、今私のイエス・キリストのぎせいの象徴である最も聖いパンを裂く神権者の任務を遂行するために使っている私の手は、この特権を受けるに足ると主張することできる価値がどれほどあるだろうか。」

彼は、自分の手がそれまでにあったあらゆる場所と自分の手がしたあらゆる事を考え始めました。彼はおちついてじっと考えました。このときほど神権者であるという特権、むしろ責任が、大きな力をもって彼にせまってきたことはありませんでした。

この末日聖徒の少年の手は、彼が忠実

であるならいつの日か、祝福、按手聖任とくべつの任命、そのほか神の子たちの霊の必要に応じてもぐみを与える目的で他の神権者の手と共に頭の上に按かれるでありましよう。また「主なる神の御計画」に従って、彼が神殿で結婚をする時には、祭壇の上で彼の手は愛する女性の手をとることでありましよう。末日聖徒イエス・キリスト教会に属する青年のほか、このようなすばらしい「行くさき」がまちうけている青年は一人もありません。まことにこのようなすばらしい祝福を受けようとするならば、どの神権者も神聖なことを軽んずることはできません。

末日聖徒イエス・キリスト教会のもっと最もめずらしい特性の一つは、十二才以上の忠実な男性には誰でも、神聖な儀式をとり行うときに働らくすべての権威と権能と共に神権が授けられる機会があるということでもあります。なお一層大切なことは、このばく大な数にのぼる神権者の一人一人は、もしも正しい記録が得られるなら、各自の神権の系統を、アロン神権のときにはバプテスマのヨハネまで、メルケゼデク神権のときにはイエ

ス・キリストの使徒である。ペテロ、ヤコブ、ヨハネまでじきにさかのぼって定めることができることであります。以上は完全に福音の回復が行われたことを証明する二、三のおどろくべき事実であります。

これまで私たちの教会の敵は、私たちの教会がまちがいと詐欺の上に築かれたものであるとくり返しくり返し批難しております。この批難をうちやぶる最もよいものは、私たちの教会では十二才以上の男性に、自ら教会の基礎である能力、すなわち神権を経験する機会が与えられているという事実であります。たしかにもしも教会が「その弱さを発見される」おそれを抱いているならば、その神権の儀式を「詐欺師」たちの小範囲にとどめて注意深く防ぎ守るでありません。神権定員会の中にある活動を通じて、最高度の霊に関する働らきや実際の働らきを見出している何十万に上る神権者の証こそ、神権が真実神から授けられたという何よりの証拠であります。

私たちは、女性に神権をもつことを許されていないけれども、神権の祝福を男性と共に分け持つということを教会で教わっております。こうした関係から生ずる深い霊の満足にもまして、啓示による最も貴い原則に従って生活している少年と大人の人人のもっている同族としての友人としての、また兄弟同志としての関係には深い慰めと安心とがあります。

主なる神が、少女と成年の女性に、教会の兄弟たちがその聖い召しを正しく行うときこれを支持する大きな責任を与えていらっしやるのは当を得ていることであります。私たちが交際をするときには貴い神権の権能の働らきによって「天にも地にも」きづなが固く結ばれることを弱めるよりはむしろ強めるように考えてすべてが行なわれなくてはなりません。教会員の中には、神権は福音の正式の儀式が行なわれるときのものであるというまちがった考えをもっている人が



たくさんおります。神権をこのように考えるなら、神権が私たちの日常生活に善い影響を与える大きな力をもっていることを否定することになります。年若い執事、教師、祭司の人々は、もしも神権にかかわる神聖な誓約を尊ぶなら、善を

行い悪に抵抗するとくべつな力を身につけております。これらの人々は、団体として働らくときはもちろんのこと、個人としての働らきによって、自分のまわりの人々にその人々の欠乏しているものを施すとき、常に祝福の源となることができます。これと同じことはもっと広い範囲について長老、七十人、大祭司の人々に言うことができます。それは「多く与えられるものには、多くのことが期待される」という原則が働らいているからです。

アメリカの青年たちには今、またはいつか軍隊に入って家庭から離れ、平常の環境から離れて、遠い前線へつれて行かれる者がたくさんおります。そこには教会の支部との接触がごくわずかしかなかった、またはあってもごく稀れであるかも知れません。このような事情の下にあって、どこへ行くかと神権が必ず共にあるということを知っているなら、それは青年たち自身にとって大きな力の源であるのみならず、また故国にある家族たちにとっても大きな力の源であります。神権の中に具体的に言っているいろいろな原則に従うとき、「義の力」は流れ出て神権者を支え導びくにちがひありません。

最近アメリカ海将の一人は、軍隊に服役中に逢った末日聖徒の水兵たちについて次のように言いました。「私があなたの教会出のモルモン青年たちについて好きなのは、彼らの各々が『一人立ちの教

会』であることだ。彼らは自分のまわりの者はもちろん、自分たちをどうしたらよいかを知っている。彼らは祈りをし、説教をし、聖歌隊を指揮し、通常組織をつくるのが上手である。私が海軍に居るうちに出席した最上の礼拝のいくつかは、あなたの教会のモルモン青年がとっさの予告の下に司会した礼拝であった。私はひじょうに多くの青年が身につけているこのような偉大な能力の秘密が知りたいものだ」と。

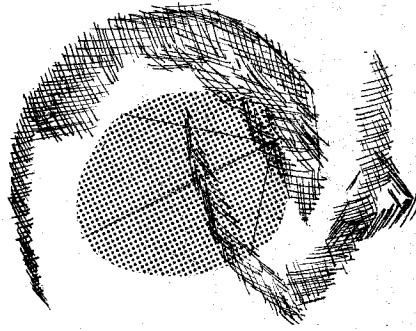
この海将は、神権の職を行うために、また教会で行われるいろいろな事に活潑に参加するために、私たちの教会では若い人々にそれぞれ機会を与えています、これがあなたのお賞めになった彼らの立派な働らきの秘密ですという返事を得ました。

神権の原則を知ってその通りの生活をしている人々には、もつとためになることがついてきます。現在の若い人々には、長い将来を見通して考えた上に計画を立てるということを全くすててしまいう強い傾向があります。非常事態、戦争不景気および常時の緊張が、そのあとに「どうでもなれ」というかたわの哲学をのこしました。私たちはみな、人間が良く工夫した計画で盲く行っていないのがたくさんある、従って神の計画もまた盲く行っていないのだというまちがった考えにおち入っている人々のあることを知っています。

ろうそくの光か 太陽の光か

「それ故に、汝らはすでに聖書を持てる故わが言葉の全部がそれに含まれたりと思ふべきにあらず。またわれがその聖書以外に多くのことを書かしめしことなしと思ふべきにあらず。われは東西南北および海の島々にある一切の人々に、われがそれらの人々に語る言葉を書き記せと言ふ。そは、われはその書き記さるる諸々の書に従ひ、その中に記さるることによりてあらゆる人をそのためしたる行いに應じて裁判せんとすればなり。見よ、われユダヤ人に語らばユダヤ人はそれを書き記し、ニーファイ人に語らばニーファイ人はそれを書き記し、われがすでにほかの所へつれ出したるイスラエルの家に属するほかの支族に語らばかれらはそれを書き記し、また世界各国の民にみな語らばかれらはみなそれを書き記すべし」……ニーファイ第二書二十九章十一、十二節

このしげきに富んだ二十世紀に生きている考え深い多くの人々の口を通して一言に言われることは「現在何をおいても必要なものは、人間の生活にあらわれいろいろの事を指導する明瞭な神のこ



れたもうた結果世界にもたらされたすばらしい祝福をちよつと落ちついて考える間を与えられています。ひじょうに大切なのは、人々がたびたび求めているその活にあらわれるいろいろな事を指導する神のこえであります。まことの教会の教員は、この「つけ加えられた光」がまさに何を意味するか、それがもつとよく

考え深い人であつたなら、成功と幸福とを得るに必要な自分の能力をひじょうに高める知識をわざと身につけないようにすることはないのであらう。完全に回復されたイエス・キリストの福音の中から容易に得ることのできる豊かな「生命を与える知識」を利用するために何をすることができるか。

解るようになる必要があります。

靈のことに心を向けている人々にとつて、神のこえは昔からまことに貴いものであります。神のこえはまことに暗黒の中の光明であり、絶望のさいちゅうの希望でありました。全人類のために聖書が印刷されるようになったすばらしい物語は、神の指導を求めている人類の渴望をしめす代表的なものであります。

主なる神は始めから聖い予言者たちに神の真理を啓示して、導きと祝福を与えるためにこれらの真理を人々の間に知らせよとお言いになりました。これまで、聖典のなかにある教えを解釈するとき、それに対していつも頑迷と迫害の焰がはげしく燃えあがりました。宗教改革の時代から現代に至るまで、神を信ずる人々の間で聖書は結合する力にもなっており、分裂を来す力にもなっております。なぜこうしたことがあるのでしょうか。神はわなをしかけて人々を混乱させ、人々の忠実さによつてその群をお分けになるのでしょうか。主なる神の家は混乱の家でしょうか。以上の答えはもちろん否であります。

主なる神がお与えになった啓示と、予

言者ジョセフ・スミスが神の賜によつて翻訳した古代の記録によつて、私たちは多くのわかりやすくても貴い真理が、あやまちと悪いくわだてによつて聖書からとりさられていることを知りました。無数の解釈をする余地があつて、その結果一致を来すよりはむしろ混乱を来すような記録をつくりあげるのがサタンの目的であつたということを私たちは知りました。啓示をうけた神の使徒たちから出たときには明るい光であつたものが、多くの大切な点でかすかな光となつてしまつて、ここかしこにかつてわかりやすい真理があつたが、今や大切なことばと眞の原文が失なわれたためにぼんやりとしたわけのわからぬものとなつていることを暗示しているにすぎません。末日聖徒たちは正しく翻訳されたかぎり聖書は神の言葉であると信じています。聖書を一生けんめい勉強している教員たちは、教員以外の人たちよりも、一般に一層高い価値を聖書に認めています。これには一つの理由があり、それを教員たるものは一人のこらず知つていなくてはなりません。

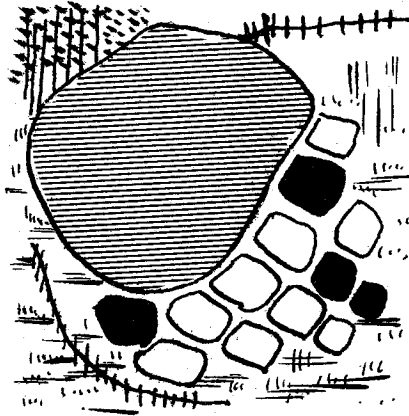
私たち末日聖徒は、モルモン經、教義

と聖約および高価なる真珠の三部の聖典が手に入りますから、聖書の内容を完全に正しく理解する鍵をもっているのです。これら三部の聖典を聖書につけ加える重なる目的は、主なる神によると、聖書から失なわれた、また聖書の中にあっても不明瞭な大切な真理をはっきりさせるためであります。

世界中に、いろいろな教会がわかれていくものになっている教義上のちがいをながめさえすれば、どの点を明らかにしなくてはならないかがすぐにわかります。前に挙げた三部の聖典をもっている末日聖徒イエス・キリスト教会が、現在あるところの既成教会からわかれた教会ではないという事実はひじょうに重要なことであります。「回復」の必要と目的とは、主なる神が次のようにきわ立ってはっきりさせておいでになります。「回復」は「改革」ではありません。「回復」は末日に於てこの地上に神の教会を再びあらたに建てるための基礎であります。

私たちは世の中の人々に、モルモン経が聖書に加えた光明をどれほどよく説明ができる力をそなえているでしょうか。私たちが、モルモン経が聖書に加えた光明をよく知っているなら、主イエス・キリストの使命についてもっとはっきりした知識をもっているはずであります。私たちは、何代にもわたってイエス・キリストの福音が地球上にあることを感謝しなければなりません。「先在」に関する

私たちの知識はひじょうにひろがり、死後に於ける人間の霊の状態と復活の状態とは明らかにするにちがいありません。モルモン経の中に書いてあることによつて、バプテスマの様式とバプテスマの意義に関する論争は終りを告げました。人間が、この地球上でそのための状態を意義ある存在とするために、地上には大きな反対の力があることをモルモン経は語っております。モルモン経がこの世に



あらわれて、その内容が世の人々に明らかにされたため、聖書にのっている多くのいちじるしい予言は事実となって現われました。モルモン経にある古代の予言者たちがアメリカの地についてすばらしい約束をした時代について光明を授けることは、まことに私たちの心に強い刺激と興味を与えています。

「教義と聖約」の中には、主なる神が現代の人々にお示しになった数々の啓示がのっております。もしも主なる神が、とくべつな使命と律法と指示とを啓示して、私たちに多くの祝福を与えることが充分大切であるとお考えになったとしたら、私たち教会員たる者はそれらの使命と律法と指示とをさがし出してこれを日常の生活の中にとり入れ、またほかの人たちにもわけ与えるはずではないでしょうか。現在、世の中の人々が神の命令をたずね求めているとき、末日聖徒イエス・キリスト教会は具体的な答えをもっています。すなわち、主の御ことばはこの地球上にわれらと共に在って「完全なる永遠の福音」を明らかにしている、と私たちの教会がもっている四大標準聖典は、私たちが現在直面している多くの困難に対抗して行くためになくはならぬものであり、またこの時期にきわめて適したものであります。

末日聖徒はその教会の大管長会、十二使徒定員会および教会の大祝福師を「予言者、聖見者および啓示を受ける者」と認めかつ支持しております。この手つづきと信仰とを、世界各地にある宗教界の霊の権威者に関して一般に行われていることとくらべて見たとき、そのほんとうの意味がはっきりするのであります。

この地球上に神の「生ける予言者」が存在していることこそ、まことの教会がひじょうな靈感を人に与えている一つの

面であつて、そのことばを聞いて従う人々はこれから大きな安心と守りとを得ているのであります。

主なる神は、ひじょうに複雑であり危険であると思われる現代に、神の承認を得た霊の指導者なしに、神の子らを放置してお置きになることはありませんでした。

私たち末日聖徒が導かれて生活しているすばらしい霊の光明について考えるとき、教会の役員から与えられている度々の勧告を見うしなわないようにしたいものです。私たちは毎年二回開かれる教会の総大会に出席するとき、これら教会の指導者たちが活躍している様に接するよい機会を与えられます。

教会の大幹部の人々の大会演説がひじょうに大きな範囲の問題にわたって行われることは、これらの方々が現代に於て真に考えるべき問題についてきわめて注意をしておられる証拠であります。これらの方々の導きと教えとにより、福音と私たちのすべての生活との間にある密接な関係が、話し手にも聞き手にも共に祝福を与えたもう聖霊の御みちびきのもとにはっきりと説き明されております。「ろうそくの光」で生活するのはおろかな事でありませう。私たちは青年のうちに「救いと昇栄」を求める探求を充分に行う決心をしようではありませんか。これこそ万人のための本当の幸福であり、また永遠につづく幸福なのであります。

私たちの天父は私たちの為に

計画をつくりました

家族のタテキストつづき

「目標」

貴方の家族に私たちの天父が私たちが永遠の生命を持てるように、そのように注意深く計画して下さった以上、私たちもこの計画を通じて得られる祝福を自覚するように計画すべきであることを示す。

「先週の割当ての復習」

家族の者に討論させて、先週の割当てに対する実行を評価します。祈りに関して成長または何らかの態度の変化が見られたでしょうか？ 祈りの觀念を理解出来たでしょうか、即ち彼らはその問題を解決するために（彼らの祈りに答える）出来るだけの事を為したでしょうかそして主に信頼したでしょうか？ 彼らの中に進歩を認めた成人はそれに就て話すべきであります。

若しも両親が彼らの内に何か進歩を認めたら家族にそれを話さない。私たちは天父に就て、彼の英知と慈悲と義、及び私たちに對する愛に就て、知っているので私たちは彼が私たちにとつて最もよいと思われる方法で私たちの祈りに答えて下さるであろうと信頼することが出来るのであるということを貴方の家族が自覚するように続けて

働らきかけなさい。

「開会の祈り」

「レッスン」

「計画の重要性」

このレッスンで私たちは私たちの天父が私たちのために如何に注意深く計画されたかを学ぶでしょう。私たちは何処から来たのか、何政この世に居るのかこの人生が終つたら何処に行くのであろうか、に就て私たちは逐次学んで行くでしょう。私たちは天父の計画は彼の私たちに對する愛の圧倒的な証拠であることを知るであります。

家族の者たちをして、すべての彼らが為す注意深い計画の重要性に就て討論させなさい。計画の重要性を注意深く計画したために成功した或は貧弱な計画のために失敗した家族の経験を以て説明しなさい。恐らく貴方の家族のレッスンの成功がこの点を示威するでしょう。両親によつて注意深く計画されたレッスンは計画されなかったものより成功するのであります。

成人ばかりの家族に於ては貴方はよく計画されたために成功した計画に就て討論出来るでしょう。例えば結婚、旅行、政策などであります。計画すること

は終局に於て異なった結果をもたらすことを強調しなさい。

両親は子供たちに赤ちゃんが生れる度に彼らが一人々々のために如何に注意深く計画したか告げることが出来るでしょう。

彼らは一人々々の赤坊を見た瞬間から愛し、それからその一人々々が彼らの生活の中心となるのであります。彼らは各人のためにそれぞれ独特の計画をすべきであります。両親は赤坊を育てるのにアパートがふさわしくないで恐らく家を買わなければならないかまたは大きな家を必要とするか或はまたよりよい収入を得るために新しい仕事を見つけねばならないでしょう。赤坊の祝福を得るために屢々面白い計画が為されるでしょう。出来るなら両親は子供たち各人のために為した実際の計画を告げるべきでしょう。どんな年の子供でも両親が彼らのために為した計画を聞いたがるものであります。恐らく両親はどの子供に就て語っているのか彼らにあてさせることが出来るでしょう。

「私たちの天父の前世に於ける私たちのための計画」

家族の者たちは如何なる年令

であっても、私たちの天父の計画に就て可成り知って居り、それに就て話したがるものですから彼らに話して聞かせる代りに彼らの知っていることを話させてその説明に参加させなさい。

白紙の上かまたは黒板の上に私たちのための天父の計画と書きなさい。これは成人の家族とまた子供を持った家族にも適用されます。

討論質問 貴方がた各人は何時新しい赤坊としてこの世に来ましたか、それが貴方の始まりですか？ 小さな子供でもこの質問に答え、説明することが出来ます。彼らがこの世に来る前に天父と共に住んでいたと答えた後、紙の上か黒板に図を画いて私たちの前世を現しなさい。レッスンの進行につれて表は成長して行きます。貴方は子供たちに順番に図を画かせてもよい。彼らはびんの蓋か大きなボタンをその型のために使うことが出来ます。(附表参照)同じ地位に画くように。また図の中に、天父と共なる私たちの前世、と書きなさい。

霊の誕生が何であるかに就て子供たちと討論しなさい。私たちの英知は決して造られたもの

ではないけれど霊の体としての形も組織も持っていなかったことを強調しなさい。

私たちの御父が私たちのために何を目論で居られたかという問題に就て討論しなさい。

家族の者たちが天父が私たちのためにはっきりした計画を作られる程私たちが彼にとって大切であることを充分に理解する迄助けなさい。

貴方が以前に用いた聖句を思い出させなさい。それが彼らに回答を与えるでしょう。彼らの内、誰か暗誦出来るか見てもらなさい。

見よ、これが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらずなり、家族の者に、不死不滅と永遠の生命、と言う言葉を説明する機会を与えなさい。(第三課参照)

これをもたらずには、よい計画が必要であることを説明しなさい。私たちが天父と共に住んでいた時に私たちは彼の計画とそれがどのように運ばれるかに就て教えられました。

質問を通じて次の真理をもたらしなさい。貴方の家族は事実の殆どを知っています。私たちはこの世が私たちのために

に備えられ、私たちは少しの間天父の許を離れてこの世に来るのであると教えられました。何故でしょうか？

私たちは二つの理由でこの世に來ました。私たちは皆肉体を得ました。私たちは私たちの天父が骨肉の栄光化された体を持つたお方であることを知って居ります。私たちは天父のようになるために骨肉の体を持たねばなりません。

私たちは天のお父様の許を離れている間に彼の律法に従うかどうか自分自身を証明するため試しの生涯に置かれたのです。

家族にアブラハムが示現で前世を見たことを指摘しなさい。私たちは彼の言ったことを読んで見ましょう。これらの節は私たちが天父と共に在った時に作られた計画を示して居ります。アブラハムの書第三章二十三節(中の一部)二十四節二十五節

を大きな声で読むか誰か他の人に読ませて他の人はこれについて読むようにしなさい。神これらの霊を善しと見たまい、これらの霊の中に立ちて言いたまへり。

これらの者の中に神の如き者一人立ちて共に在りし者たちに

言いけるはわれら降り行かん、かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて、これらの者の住まうべき地を造らん。

而して、これによりて彼らを試し、何にてもあれ、主なる彼らの神の命じたまわんすべて、のこを彼らが為すや否やを見ん。

家族の者にこの節を討論させなさい。私たちの天父が霊である私たちの間に立つてこれらを善しと見られたことを考察することは興奮を覚えなさい。彼は私たちのために地を備え、私たちがそこに来て彼の誠命を守るかどうか試そうと計画されたのであります。

私たちは前世に於てこの計画を理解し、受け入れたのであります。

私たちのために地が備えられたことを学んだ時に私たちはどのように感じると思いますかに就て討論しなさい。(聖書は、私たちは喜び呼ばわった、と言って居ります。ヨブ記三八・四一七参照)どうして私たちはこのように感じたのでしようか？ どうして私たちは前世のことに就て思い出すことが出来ないのでしょうか？ に就て討

論しなさい。或回答は次のようであるかも知れません。私たちは出来るだけ自分自身に立脚することによって自由意志を使い独立した個人として強くになれるのです。そして私たちは信仰によって生きる能力を展ばすことが出来るのです。若しも私たちが前世の美しさを覚えていたらここに留って昇栄に努めようとしなかったかも知れません。この世には多くの対立があり若しも私たちが天父と共に在った喜びと美しさを覚えていたら失望するかも知れないでしょう。

「私たちのための天父の計画は私たちのこの地上の生涯であります」

子供或は家族の者たちのため仮想飛行機旅行を計画しなさい。家族の各人をして飛行機で遠く離れた大都会に住む祖父母を訪ねに行くものと想像させなさい。彼はまだ一度も飛行機に乗ったこともなくまた一度もそこを訪ねたことがありません。それは単なる見物旅行ではありません。おじいさんが背中を痛めて暫く静養せねばならず誰か庭掃除やお遣いにおばあさんを助ける人が必要だったのです。おじいさんは誰か将棋の相手に

なり話相手になる人が欲しかったのです。この旅が貴方にとって安全な幸福な経験となるように両親はどのような計画をするでしょうかに就て討論しなさい。成人した家庭ではおばあさんが娘が赤ちゃんと生れるので娘の家族を訪問すると仮想しましょう。

貴方の飛行機の予約をする必要な出費のためにお金を準備する

適当なトラランク或は手提を用意する

貴方の衣服をチェックする清潔、修繕、服装に必要なものの購入

衣類洗面具等を持ったか忘れ物はないだろうか

機上の心得に就て語り合う

飛行場の出迎えを予約する
迎えに来てなかった場合にどのようにすべきかの指示、貴方は祖父母または娘さんの住所及び電話番号を記録して持つて行く

早く屢々手紙を書きなさいとの指示

このような計画がなされずに旅行に出かけるとしたら家族の者たちはどのように感ずるでしょうか討論しなさい。

この世への旅に私たちを送り出す天父の計画に就て討論しなさい。

質疑応答によって次の事実が提起されるかどうか見なさい。

貴方は両親及び家族によって編迎された。

貴方の両親は貴方がこの世に來て得る肉体を備えた。

この肉体は貴方の霊が宿る家のようなものである。

貴方が永遠の生命を受けるにふさわしい者であることを証明するためにこの世に來たのであるから天父は貴方が彼の律法を守るように貴方の両親に貴方を教えるように計画された。

私たちの天父は予言者が神の律法を神の子供たちに教えるように計画された。

天父は私たちが彼の律法を学ぶ機会を持てるようにその言葉を書物の中に書きました。(標準聖典を示す) (これらの書物は神の子たちがこの世に於ける幸福と永遠の生命を受けるために為すべきことを教える神の言葉であることの貴方の証を述べた方がよろしい。

天父は私たちが永遠の生命を受けれるように助けるために御子イエス・キリストをこの世に

遣わすように計画された。

天父はこの地上で私たちの歩く道がはつきりと記されるように計画された。もしもそうでなかったとしたら即ち私たちを導く神の律法がなかったとしたら私たちはどんなに迷ひ混亂するだろうか?

私たちの天父は私たちをこの世に送る時、貴方が貴方の飛行機旅行を計画したより以上に注意深く計画されたことを指摘しなさい。表の上にこの世の生涯を表わす図を画きなさい。図内にこの世に於ける私たちの限りある生涯と書きなさい。(附表と同様の位置に書きなさい) 限りある(死滅する)の意味を討論しなさい。限りあるということとは私たちはこの世に永久に留らず私たちの天父の御前に戻る機会を持ち、そこで私たちはこの世で知ることの出来なかった永遠の喜びを経験するであろうということの意味します。

貴方は次のような質問をしたと思われるかも知れません。何故私たちは天父と共に前世に留って私たち自身を証明出来ないのでしょうか? 子供たちが一人立ち出来る迄に成長する日を目指していることを指摘しな

さい。私たちはそうするためにこの世に來なければならなかったのです。私たち自身を証明するだけではないのであります。「私たちの天父の計画は私たちの永遠の生命であります」

家族の者に下記の聖句を聞いて何に就語っているか告げることが出来るかたずねてごらんなさい。大きな声で読んであげるか読みながらその意味を理解出来る年長(十代)の子供または他の成人に読ませなさい。

目がまだ見えず、耳がまだ聞かぬ人の心に思い浮びもしなかつたことを
神はご自分を愛する者たちのために備えられた。

(コリント前二・九)
次の点を強調しなさい。この聖句は永遠の生命の美と栄光に就て語っているのです。神を愛する者は彼の律法を守るでしよう。彼らはアブラハムの言ったように主なる彼らの神の命じたまうすべてのことを為すであります。

アブラハムはまた次のように言いました。彼はこの世の生涯を第二の位と呼びました。アブラハム書三章二十六節(後半)

参照

而して、第二の位を保つ者はとこしえに栄光をその頭に付け加えられん。

アブラハムは何を言っているんでしようか?(彼は永遠の生命の栄光を参照しているのです。それは私たちがここで御父の律法にどれだけ従ったかによります)

表の上に図を画いて永遠の生命を表しなさい。(附表と同様の位置に書きなさい)

図内に、再び私たちの天父と共に、永遠の生命と書きなさい。

家族に天父は私たちの來世に就ても他の二つに就て注意深く計画したと同様に計画されたことを教えなさい。下記をも含めて、彼らが死後どうなると感じているか討論しなさい。

死ぬと霊は再び肉体から離れます。復活に於て霊は再び肉体を受けるでしよう。私たちは復活する迄どの位かかるか知りません。この世にある間に天父の律法に従った者は、キリストが再臨する時に復活するでしよう。不義なる者はその時から一千年の終るまで復活しないでしよう。(教義と聖約八八・九五

すべての人が復活してから私たちは裁かれます。天父は義のお方でありますから、私たちはこの世の生涯に於て為した行為によって得たところのものを受けてゆくでしょう。続けて悪を行う者は不幸を受けつぐでしよう。天父の律法に従った者たちは永遠の生命の中に幸福を受けつぐでしよう。

若しも家族が十代及び成人からだけ構成されて居るなら教義と聖約七十六章に見られる三つの段階の栄光に就て学ぶとよろしい。また百三十一章をも参照しなさい。

「前世現世来世の相違」

家族の者に貴方が作った図の表を用いさせて、私たちは何処から来たか？ 何処私たちはこの世に居るのか？ 何処に私たちは行くのか？ を説明することによってレッスンを要約させなさい。

モルモン経の中でヤコブが言った、おお大いなるから神の御計画に就て討論しなさい。貴方の作った表の下にこの文を書きなさい。表を掲示板にかけるかまたは今週中すべての人がよく見える処に貼りなさい。それ

はこれからの何回かのレッスンに用いられるでしよう。

次の諸点を討論しなさい。

一、私たちは家族としてこの生涯で最も欲しているものは何でしようか？（結論は恐らく彼らは幸福を欲しているでしよう）
二、私たちはどのようにして幸福を得ることが出来るでしようか？（私たちの天父のすべての計画が私たちの幸福のためである以上、私たちは彼の律法に従うことによってそれを得ることが出来ます。）

三、家族の人たちが私たちがこの世に居る間に神の律法を守り彼のようになるように努めることが如何に大切であるか感ずるようによけなさい。この世の生涯は前世と来世に比べると一分の長さにも達しません。けれども私たちがここで為した事は来世の運命を決定する程重大であります。若しも両親が子供を一年間大学に派遣して子供が永久に帰って来なかったらどんなに悲しいでしようか？ 私たちの天父が私たちをわずかな時間この世に送って、私たちが再び彼と共に住まなかつたらどんなに悲しいことでしょう。

「私たちの家族は私たちの御

父の律法に従うように計画します」

私たちはこの世に来る前に既に天父の計画を知っているのですからこの世で彼の律法を守り彼のようにするには非常な努力を要しそこには失敗する機会のあることも知って居る筈であります。けれども私たちは喜んで来たのであります。私たちは確かに彼の律法に従い彼のようになって彼が用意してくれた祝福を受ける決心をしたはずであります。

若しも天父が私たちのために計画される必要があるとするなら私たちもこの世に於ける私たちの生活を注意深く計画することなくして私たちの分担を果すことを期待出来ません。家族が天父の律法に従い彼のようになる（第二の位を保つ）ためにどのような計画が出来るでしようか討論しなさい。

家族の者によって提出された実際の案は如何なるものでもよく検討して計画として採用し実施しなさい。次の各項はその例となるでしよう。

一、若しも貴方が定期的にお祈りをしてなかつたら、そして子供がこれは改めるべきであると

提案したら家族の祈りを定期的に持つことによって従います。

二、息子たちは見学のためではなく神の子たちに神の律法に従うように教えることによって天父に奉仕すべく伝道に出ることを計画するでしよう。両親は子供たち各人と伝道資金を創設することに就て詳細に計画すべきであります。それは毎週毎年増えて彼の召しが来た時に彼を支持するであります。これは如何なる年令の子供たちにも適用されます。子供たちに映画や

アイスクリームやポップコーンやを犠牲にして毎週少しづつ伝道資金に積立てるようによめしなさい。この目的のために別途積立にすれば子供たちの主に奉仕しようとする熱意を増加させるでしよう。

三、家族の者すべては神殿結婚を計画するでしよう。これは重要な計画であります。それはこの生涯を幸福にし神殿の結婚は永続し永遠の生命に通じるものであります。家族は永遠の生命のための基本的な単位であります。貴方の家族の各人が神殿の結婚を保証されるように周到に準備しなさい。

四、家族は休暇を利用して教会

の史蹟めぐりをするようにまたはその目的で資金を貯える計画をするように。

五、家族が共に為そうと長い間望んでいたけれども実現出来なかつたよいことを考えてごらんなさい。今週中に何かよい計画が出来るかも知れません。恐らく次のような提案は貴方自身の計画を刺激するでしよう。

a 近隣に越して来た新しい家族または貴方が晩餐に招待することを喜ぶような家族を招待しなさい。或勤勉な家庭はこのような方法で、教会のために多くの改宗者及びお友だちをつくりました。彼らは家族の者すべてが参加するように注意深く共に研究しました。彼らは毎週非教会員の家族を招待しました。これらの家族は子供たちが逢ったお友だちかまたは両親のお友だちでありました。

b 春の庭の手入れを家族中

c お母さんの負担を軽くするように皆が手伝って春の大掃除をします。

d 家族全部でおじいさんおばあさんの家か或は未亡人かまたは年とった御夫婦の処へ春の庭の手入れか家の大掃除を手伝

いに行きます。

e 御無沙汰していた祖父母か、または貴方からの手紙を喜ぶ人に手紙を書きます。家族の各人がその手紙に自筆で何か書くようにします。家族の者が皆共に坐つてそれぞれ異つたことを書くように計画しなさい。遠く離れている子供たちは家に書くべきであります。おじいさんやおばあさんは子や孫たちに書くことが出来るでしょう。

貴方が選んだ企画を実施しなさい。このレッスンの一部として詳細な計画を立てなさい。すべての人がそれを計画出来るように時間を設けるべきであります。若しもその計画が他人をも含むなら彼らを招きなさい。若し出来るなら貴方のレッスンの間に彼らの同意を得ておくとうろしい。貴方の家族の一人々々が責任を持ち、それが何であるか、それをどのように為すべきかをはっきりと知るように注意しなさい。

貴方の計画が成功的に運営されて行くにつれて家族と共にそれを評価しなさい。夕食時はこのような話をするのによい時間であります。この計画及び奉仕

活動が貴方にもたらした喜びを強調しなさい。家族の者が生涯の幸福をもたらし、よりよく天父に似ようとするなら、私たちの日常生活を注意深く計画せねばならないことを自覚するように導きなさい。

「閉会の歌と祈り」

讃美歌集百四十番の、高きに榮えて、を歌いなさい。

若しも子供が家から離れて居る場合には、両親は子供が手紙を書くように祈りに含めてもよいでしょう。私たちの天父は私たちに彼と接触を保つように望んで居られます。私たちは私たちの生活を計画するのに彼の助けが必要なのであります。

(在世に於ける人々)
(共に地上に居る)
(天父と共に生きる)
(私たちが共に生きる)
(天父と共に生きる)
(天父と共に生きる)

第十二課

家族活動の時期

「目標」

家庭内の愛と結合を強化し、過去十一週間の教えを家族にのべて興味あるような方法で補強する。

「幸福な家族関係を打建てる」

過去数週間の家族の勉強時間及び活動時期の主な目的の一つは家族内の愛と協力精神をもたらすこととあります。家族外の他人との関係

編集後記

■愛読者のみなさまお元気でしょうか。

八月のこの暑さをいかがアイディアでのがれていらっしゃいますか？。八月の表紙をごらんください。ひまわりの強さを真似って、うんと太陽の刺激を味わいましょう。学生のみなさんの夏休みはようしやなく過ぎ、うかうかしているうちに宿題がたまつてしまします。どうぞあの最終日の苦しみを作らないように。今月もがんばりましょう。

■質疑応答は服装についてです。わたしたちの関心事であり、これから社会との接触がますます激しくなるにつれて、一層問題化してくれる事に、明確な解答を与えていくれます。指導者のみなさまよくお読みになりますように。

■現在のわたしたちの最大の関心事は、なんとといっても、教会堂建設とハワイ神殿の訪問計画。いかがでしょう。みなさんの働きが、その計画を進めるか、後退させるかの鍵となります。暑さのなかもう一がんばりしましょう。

(二)

聖徒の道は

私たちが真理を知る「てだて」であり

私たちの心と心がかよう道です

あなたの霊の進歩のために

あなたの信仰のかてのために

お役に立つ本であればと思います

支部所在地

北海道地方部

- 旭 川 旭川市8条5丁目
MIA集会所 旭川公会堂
電話 (2-1545)
- 室 蘭 室蘭市幸町 89
電話 (7054)
- 小 樽 小樽市富岡町 1ノ35
電話 (2-8224)
- 札 幌 札幌市北2条西24丁目
電話 (63-7866)

東中央地方部

- 群 馬 高崎市並榎町 275
電話 (2-7121)
- 甲 府 甲府市中央3丁目 12-2
松本市開智 1ノ1ノ6
- 新 潟 新潟市中大畑町 557
電話 (2-8660)
- 仙 台 仙台市光禅寺通り 28
電話 (25-0897)
- 東京中央 東京都港区青山北町 6ノ34
電話 (408-3307)
- 東京北 東京都中野区江原町 1ノ8ノ14
電話 (952-1531)
- 東京東 東京都江戸川区西小岩 5ノ8ノ6
電話 (657-5223)
- 東京南 東京都大田区南千束町 2-25-11
電話 (729-6311)
- 東京西 東京都武蔵野市吉祥寺東町 1ノ7ノ7
電話 (22-6764)
- 山 形 山形市七日町 4丁目 12ノ23
- 横 浜 横浜市港北区篠原町 29
電話 (49-8772)

西中央地方部

- 阿 倍 野 大阪市阿倍野区阪南町中 1ノ38
電話 (623-4315)
- 福 岡 福岡市浄水町 46
電話 (52-8653)
- 広 島 広島市古田町古江 400ノ3
電話 (31-6135)
- 金 沢 金沢市兼六元町 3ノ8
電話 (21-2131)
- 京 都 京都市左京区下鴨松原町 44
- 名 古 屋 名古屋市昭和区北山町 3ノ41
電話 (73-4210)
- 西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町 4ノ54
電話 (5-0141)
- 岡 町 大阪府豊中市岡町北 2ノ18
電話 (52-1236)
- 岡 山 岡山市学南町 1ノ13ノ11
- 三ノ宮 神戸市灘区篠原本町 4ノ35
電話 (86-2602)
- 柳 井 山口県柳井市市 391

沖縄地方部

- 普 天 間 沖縄宜野湾市野嵩区 328
- 那 覇 沖縄那覇市崇元寺町 1-128-20
電話 (8-6568)

建築部事務所

- 東京都港区青山北町 6ノ34
電話 (402-4010)

(誤りのある支部の支部長はご一報ください)

聖徒の道

一九六六年八月一日発行

振替口座 東京一六二二六番

発行人兼編集人 アドニー・Y・小松

発行所

東京都港区南麻布五丁目八番十
末日聖徒イエス・キリスト教会

印刷所

株式会社三五堂

定価八十円

一年予約八百四十円(申込は支部長まで)